



すごく温かくて優しい

絵柄ですが、「親子の愛情」や「命の重さ」なども病気で亡くすシーンが印象的でした。「もしも」と願っています。

家は長女

(小学2

年)、長男

(幼稚園年

親子の愛情、命テーマ

子育て悩んだら読んで

長組)、次女(1)がいて、自分だったら」と想像しはもろろん、夫として妻みんなに読み聞かせをしたただけで悲しく、読むたびに胸が痛くなります。忘れられないようにしたいです。

自分は母ギツネが子どもに行き詰まった時にこそ、この本を読んでほしい。休日は子どもに読み聞かせをする機会が多いですが、絵本は親子の会話を広げるツール(手段)にもなってくれる。ふとした会話から子どもの成長を感じてうれしくなります。



「絵本の読み聞かせは子どもとのコミュニケーションを広げてくれる」と話す鈴木貴之さん

題名になっている電話ボックスは、遠い街で病中の母親に電話をかける少年と、少年にギツネの姿をだぶらせる母ギツネをつなぐ存在として描かれています。実際の子育てでも母親と子どもとの結び付きはとて強

く、だからこそ母親の方が子育ての負担も多いように感じています。今は「イクメン」とい言葉が広がってきていますが、父親として子育てに積極的に取り組むのもある。

「きつねのでんわボックス」(戸田和代作、たかかずみ絵、金の星社)は書店や通販などで入手可能。図書館の貸し出し

すずき・たかゆき 今年6月から県立幼稚園PTA連絡協議会長。インターワイヤード岩手胆沢工場勤務。37歳。奥州市胆沢区出身。